

科目名	書道			担当教員	寺坂文和		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	11G02_20150	単位区別	履修
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書之美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。</li> <li>・多様な書之美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。</li> </ul>						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 書之美を求めて (1)	(1)		書が求める美とは何かを考える		A3:1	
	2. 篆書の学習(1) さまざまな篆書	(1)					
	3. 石鼓文の鑑賞と臨書	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する		A3:1	
	4. 金文の鑑賞と臨書	(2)		それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする		A3:2	
	-----						
	5. 隷書の学習 さまざまな隷書	(1)		特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする		A3:2	
	6. 隷書の特徴	(2)		特徴を確かめ、その特性を確認する		A3:2	
	7. 曹全碑の鑑賞と臨書	(2)					
	8. 行草書の学習(4) 風信帖の鑑賞と臨書	(4)					
	-----						
	9. 行書の創作	(3)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。		B2:1	
	10. 楷書の学習 整齐の美と均衡の美	(3)					
	11. 仮名の書の学習 種類、特徴	(2)					
	-----						
	12. 漢字仮名交じりの書の学習	(1)		漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。		B2:1	
13. 書体の趣を生かした表現の工夫	(2)						
14. 古名跡を応用しての表現	(2)						
16. 全体構成の工夫	(2)						
-----							
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅱ」 教育出版						
備考							